

安富六郎

ROKURO Yasutomi

多摩川・上水  
徒歩思考



# 武蔵野・江戸を 潤した多摩川



農文協

## まえがき

学生時代から歩くことが好きだった。昔読んだ本に『利根川図誌』（1855年、赤松宗旦著、岩波文庫）があるが、この本は利根川流域の自然、社会、民俗伝説などを広く詳述した地誌であり、赤松は取材の旅もしている。そこに描かれていた、カッパ伝説、手賀沼近くの竹林の怪、女化原などの超常現象的な物語はいまでも印象に残っている。このような非科学的な話は現在では通用しないが、これに似た話はどこにもたくさんあるだろうし、こんな楽しい見聞の「歩き」をいつかはしたいと思っていた。

「水は文化を運ぶ」と言われるが、退職後、多摩川や玉川上水などを歩くうちに、自然の恵みのなかで文化は育ち、川を通して伝わり拡散し、発展する、まさにそのとおりと実感した。多摩川から取水された上水・用水が武蔵野や江戸（東京）の発展に寄与した役割の大きさと、その開発にかかわった職人や技術者の英知にあらためて驚かされた。

わが国の水利用の歴史をみるかぎり水田開発が中心であった。ところが関東ローム台地や谷津が組み入った土地条件では、それとは異なる技術が必要とされる。台地開発の技術が従来の水田開発とどう異なるのか、水をめぐる技術がどのように伝承されたかなど、現場の事例から見直したいと思ったのである。

多摩川の水は、右岸では相模の二ヶ領用水、左岸では六郷用水、府中用水、さらに玉川上水を軸に野火止、青山、三田、千川、その他、さまざまな武蔵野の用水につながっている。なかでも玉川上水が幾度かの失敗を重ねて台地開発を可能にしたことは、水利技術にとつてもおおいに興味のある問題である。既存の説や文献に囚われることなく、現在残されている遺跡を一つひとつ歩くことによつて実証的に、その存在意義や相互のつながりを工学的側面から検証してみた。

この本では、はじめに河川全域で見聞し、感じたことを記し(第Ⅰ部 多摩川源流を訪ねて)、次にそこから取水された上水・用水について述べ(第Ⅱ部 武蔵野・江戸を潤した多摩川の上水・用水)、それら相互の関連、人との関わり、社会の流れを見ようと試みた。市井の人々や農民の水への執着、その技術向上への飽くなき努力が伝われば望外の喜びである。多摩川の利水、玉川上水の開削はまさに「水と土、人間万歳」の姿そのものと思う。このようなことを考えるに至つたのも「歩きの効用」だろうか。

本書の執筆にあたっては、多数の適切な助言を山崎農業研究所の会員諸氏と農文協プロダクションの田口均氏からいただいた。厚く感謝する。

2015年2月

安富六郎

# もくじ

まえがき (i)

## 第I部 多摩川源流を訪ねて 001

002 序 源流へのみちのり

005 河口は多様な生きものの生息場所

008 河口周辺の今昔

010 多摩川と江戸を結ぶ羽田の水運

011 東海道の大橋——六郷橋と多摩川大橋

013 多摩川名所が集まる二子玉川地区——ガス橋、丸子橋、二子橋

016 河川合流と洪水により分断された町名

017 二ヶ領用水——多摩川最古の用水

020 武蔵野の水利開発の先駆け

022 六郷用水——用水ルートに込められた謎

- 027 低地を流れる六郷用水のロマン
- 030 多摩川の自然にふれる——宿河原堰からは政橋へ
- 034 府中と多摩川——是政橋とその周辺
- 035 街道との関わり——関戸、分倍、六所宮
- 038 河川氾濫と2つの小野神社——一ノ宮
- 040 色濃く残る武蔵野の面影——府中四谷橋から日野橋
- 043 府中用水——玉川上水の失敗遺構か
- 046 多摩川の洪水と「渡し」の関係——熊川渡し、牛浜渡し
- 049 玉川上水の原点——羽村堰・玉川兄弟像
- 053 ニヶ領、六郷、府中用水と玉川上水
- 054 調布橋の夢——ラフカディオ・ハーンと「雪おんな」
- 057 木材輸送で栄えた街——多摩川から見た青梅
- 059 街道と川を通じた交流——文化の流れ・多摩川の魚
- 061 織物の盛んな土地柄——多摩川の調布
- 064 防人たちの辿った道筋——万葉の多摩川
- 066 街道筋の街並みと溪谷美——吉野街道・古里・奥多摩溪谷
- 070 「むかし道」を歩く——奥多摩湖への山道

073 湖底に沈んだ村——小河内村の歴史

076 県境に至る——奥多摩湖から丹波山村へ

079 「歩き継ぎ」にあらためて思う

082 青梅街道から急勾配の林道へ——おいらん淵、一之瀬川、作場平

085 水源林の様相と役割——笠取山

089 源流・水干に到着

091 源流への旅を終えて

## 第Ⅱ部 武蔵野・江戸を潤した多摩川の上水・用水 093

### ●玉川上水の謎

094 玉川上水にまつわる技術的疑問

096 世紀の大計画

098 上水と地形

100 台地を測る

- 102 火山灰土に土水路を造る  
104 漏水層を避ける  
106 水路の浸食  
108 ノリ面保護と玉石積み  
110 取水点はなぜ羽村か  
113 四谷大木戸までの路線選択の妙  
116 地形観測の秘密を想像する  
117 玉川上水成功のカギ

●野火止用水開通の風景

- 120 用水のいわれ  
123 用水通水3年説  
124 通水の前提  
126 漏水の止まった理由——水路の通水メカニズム  
127 通水までの地下水面変化を推理する  
128 誰が風景変化を見たか  
131 豊富な水と通水開通時期

- 132 豊かな水量の背景  
134 用水開通への疑問

●まぼろしの青山上水

- 136 痕跡をたどる  
137 水路配置のふしぎ  
140 忘れられた堀  
142 江戸火災と上水  
145 農業への期待と上水管理  
147 隠田の水車  
148 青山に見る水路の遺構  
150 麻布水道

●千川上水再発見

- 152 散策のできる水路  
155 上水の面影  
158 流量を推定する



●三田上水紀行

- 159 上水か農業用水か  
160 千川上水の水質  
162 上水廃止の理由  
165 循環農業の広がり  
166 用水と練馬大根  
170 利水の変遷
- 172 多彩な上水の文化  
175 三田、目黒の水  
177 水路の路線と水車  
179 近代農学の発祥  
182 用水の定量分析  
184 西郷山公園・滝水の単価  
186 三田(目黒)と街の美観  
189 ビールの原料水  
190 ビール文化

## 索引

199

195 3 上水をふり返って

194 よみがえれ三田用水

191 あいまいな水利権